

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	施設長通信(HOPE)の再開とホームページの改革の取り組み
	内容	施設長通信(HOPE)は、前施設長の異動に伴い一時休刊していたが、再開されている。紙面の内容は以前にもまして利用者の生活ぶりが、いきいきと伝わってくるようになっている。施設長通信が個人的なものでなく施設として継続されており、三原山の火山情報など家族等が心配することについても毎号を掲載するなど、より充実したものとなっている。また、施設のホームページについても、従来、法人のホームページの中にあつたものを独立して施設独自のホームページとしている。施設の広報への取り組みは、みるべきものがある。
2	タイトル	日中活動としての絵画工作では、「タコとイカ」と「糸島」(集団製作)の2点が海の絵コンテストで表彰されている
	内容	施設の日中活動としての絵画工作は、指導する先生の努力もあって、毎年素晴らしい絵を作成している。利用者の絵は施設の玄関を飾っている。来所する人には潤いと暖かさを与えている。本年の9月初旬に大島町で開催されたイベントの中で海の絵コンテストがあり、施設の利用者の作品を応募したところ「タコとイカ」と集団製作の「糸島」の2点が入選し利用者が表彰されている。表彰作品は、大島元町港の待合所に掲示され、訪れる方の目を大いに楽しませてくれるものと施設では期待している。
3	タイトル	施設は、利用者の権利擁護の姿勢を明らかにしている
	内容	施設の27年度の事業報告書では「障害者差別解消法」について施設長が研修を受講し、差別解消について職員に報告したことが書かれている。28年度の事業計画書では、利用者の支援方針の中で「障害者差別解消法」に則り「合理的配慮による利用者の自己選択と自己決定を尊重」していくことを方針の柱としている。施設では「障害者差別解消法」の研修を行うなど、施設長を先頭に利用者の権利擁護を実現していくとする努力が見られる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日中活動の活発化が望まれる
	内容	施設での日中活動は、障害の程度、支援・介護の必要性、本人の希望により利用者を5つのグループに分けて、それぞれのグループに用意された作業を行う事としている。しかし、家族調査のコメントを見ると「作業は休みが多く1日中部屋にいることが多い」「日中活動は何をしているのか分からない」など多数の日中活動への不安が寄せられている。日中活動の計画通りの実施と活性化を図り、利用者のサービス向上を図ると共に家族の不安の解消に努められたい。
2	タイトル	施設への不法侵入対策について
	内容	「神奈川の事件」にみられるような施設内に不法に侵入して、利用者を傷つけるようなことは、あってはならないことである。大島町での平穏な生活の中で、不法な侵入へのイメージは、なかなか浮かんでこないがされている。しかし、想定外の事件が多発する現在まさかの事件が起こることも考えておかなければならない。現在の施設の不法侵入対策は、門に施錠がなく防犯カメラも不十分である。不法侵入対策を検討し改善策をまとめて実施されたい。
3	タイトル	施設のマニュアルをより簡潔に素早く使えるようにされたい
	内容	施設のマニュアルは、多岐にわたり整備されており、経験豊かな職員やゆっくり読んで学べば実際の支援に役立つものである。しかし、離島にある施設では、同一法人の系列施設からの異動があるうえに新入職員も毎年配属されている。職員の出入りが多いため、マニュアルをこなさなければならないという状況がある。マニュアルが多くあることで支援が十分と安心はできない。今後、マニュアルの無駄を見直そうとすることに加えて、今あるマニュアルを簡潔にまとめて早わかりを作成して、素早く実際の支援に使えるようにされたい。